

二十九

中教審答申、臨時措置法粉碎、民主的
改革勝利、新たなる大学の内実を構築すべく
6・20 美実統一行動を再び

解体路線の破産をのりこえ、團つ学内統一戦線を形成する。

1) 国内のヨラ統一戦線の形成による新たな大学の創
立、「教授会自ら」の左から否定されなければなら
ない。へ「教授会自治」の右からの否定に対し、敵は
偽善者では偽善者では「理由」と「自省を重んじて現
時実においとは「教授会自治」」であるスローガンで
「現状維持」を「対置」する事は全くの口和見主義で
あり、眞にヨリと勝利させるものでは無い。しかし、
「教授会自治」の左からの否定を行う時、それはもは
や守るべく自治はヨリとして「大學解体」リ永続明封
鎖を主張する王兵三諸君の解体路線とは明確に異なる
事を銘記せぬはならぬ。

この事は政府自民党の「足利の異議」を示して、
その決してその「战略」の基本的変更を意味す
るものでない事を我々は銘記せねばならぬ。それは
今回の「臨時措置法」が、文部省の权限強化と文部省
の「監督」の強要の法制化といつ形で、一方で政府独
占による大学の直轄支配への道を開くものであると同
時に、②国内の教員の上部集中と「教授会自治」の
「左から右の否定」をテコとした国内盤における政府
独立の意志を貫徹させるための条件整備と大学改革
の本題へとこえりも「条件整備」のためのカッコつ

62年大嘗法三字は政府文部省による大學の眞理支配を阻止したこと、つまり勝利ではめつに、「大學自治」の「教授会自治」への矮小化を実現しきり、それ以降の政府獨占による「教授会自治」の弱々を利用して文部官僚、事務官僚の送り込み、予算政策を二つとするなしくすし師大運営配改策を一定許したといふ限界を持つことに、大學自治の「教授会自治」への矮小化は曰て師大運営規制路線の転じつけを認めて、大學及び教育の場における政府獨占の意を實効を阻止する条件とは何なりえず、それ故に、そのことと現在の市大学革々斗争、大學斗争の中での敗戦にはならない重要な課題となるつてゐる。

キ「改革」の推進、一と二つの形での巧妙な再編配の強化といった大學支配における「正面作戦」の史に位置づけられるものであるが、その一方で現時よりおける我々の斗争は、躊躇措置法群の斗争であると同時に、その内実を形成するものとしての徹底した改革斗争として、民主的改革勝利

二の事から、「立派粉碎」一員突破主義（立派粉碎だに）
けを言つてあは語らひ（）は、当面立派粉碎が重要
な課題である点をうして、それはそれとして極めて大
きな役割を果たすにあらうが、それより現在の改革斗争を
切り離された所、69年大嘗志斗争の限界を止揚する

とのところ、この「正統性と論議」といふもの

がここにあります。眞の「正統性」を論議せんとする所

□ 何をも舊行動せしむはへりへつゝに及
以上の実をもあらわするかうは、現時実での我々のシテか
何をなうといおばかうる。シタロ自ずと明づみにゐるのであ
れつ。

臣著一「正統性と論議」の諸君達は、現情勢を「ア
システムの前夜と把えること」に。『現行』、『新進する』
とは全て、『挑發』だとして語りぬるなり。『現行』、「進歩する」
曰く「正統化路線を走つこしる」。『彼うほり、20年節
立法粉碎全市大統一行動の意』を向つ評価あることなく、
トロシキストみ参加するたり。ところ、理由、ひ一切表
示し、どうするべ叫びださに違ひなし。——「トロシキスト
の策動と計る統一行動裏行番を糾撲する」と

何よりと我々々がちこりぬほんたうじのは、大學生志
粉碎のシテ真実統一であり、その内容として、単なる十
志案の成立阻止にことじきつて、62年半實志斗争が克服
じえむる。たとの「大學自治の実現と自治への縮小化、
そのことによる自正規制路線の認認」を舌服する」と、
即ち、徹底した民主的改革であることはいうる。

我々のシテの由で先生、院生、教職員々自らと大
学の社成員一主体者として貢め、大學及び教育の場にお
いて政府独占の真実で日々、自らの意志を發揮せせる
保障をなすちとらねばならぬことだ。

我々は誰々語るとなるわらふ、その内容に於いて全て
を判断し、論理の正当性と主義の正しさのみを主にしき
配する体制を採用せねばならぬ。誰々主義じゆう
は正しく主張だけを貫徹する保証と更現されねばならぬ
に、(台意重頭に閣する実行ノ義規定)は最高決定所能
持つ全體的認定の確立はみなるとのものである)とて
との事は、研究者として、教育者として、先生として、
拘りつぶ、その資質なにえよ尚ひ又えべりればならぬ
的態度に体現せらる。

左右ニ諸君の言つ、大學解体路線、は々々る視度を全
くや否やせしり。それは自分達だけ「斗争の主体者」
であり、自分達の主張だけが「正しく」なるとの実戦
的態度に体現せらる。

左共ニ諸君は、政府独占の質をも貫徹せしむ。——と
はなりと、考慮する余り、自らの質を以て「解体」以外に
確立し得ず、その「質」を以て物理的に、貫徹。さ

れども

再度確認するならば、我々の獲得すべきは、我々自身、
そして全て身に成員なりのシテの由で實現した思想斗争
の資質を自らのものとするものであり、それ以外の权
利の横行を一切許さない体制を構築することである。

我々は、6、20正統化路線全市大統一行動を全市大
のシテ学生、院生、教職員とシテ抜く由で、タカラモノ
の方向性を確認し、更にシテ統一戦線を打ち固めねば
ならぬ。

民國同市之支部の、6、20統一行動の中で結集されし
處にシテ力と基礎に、6、20反保守至る統一行動、大學生
立法粉碎、民主的革命勝利オハ波斗争をシテ抜き、市大
改革斗争の勝利さるべく全力をあげシテ抜くことを
再度明瞭にしたい。

6、20正統化路線全市大統一行動に起し、解体路
線の破産とのりこえ、強固なシテ統一戦線を形成せよ。